

【執筆者プロフィール】

佐藤道生

一九五五年、東京都生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学。慶應義塾大学教授。博士（文学・慶應義塾大学）

佐々木閑

一九五六年、福井県生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得満期退学。花園大学教授。博士（文学・佛教大学）

荒木龍太郎

一九五一年、福岡県生まれ。九州大学大学院修士課程修了。活水女子大学教授。

関守研悟

一九七二年、和歌山県生まれ。花園大学大学院博士課程修了。和歌山県聖福寺住職。花園大学非常勤講師。博士（文学・花園大学）

福島恒徳

一九六二年、熊本県生まれ。九州大学大学院修士課程修了。花園大学教授。

【編集後記】

この『研究紀要』も、おかげさまで第七号が無事に発刊の運びと相成りました。今回も五名の研究者の方々に玉稿をお寄せ頂いております。ご味読頂ければ幸いです。

佐藤道生先生からは、大燈国師を筆者と伝える一群の断簡に関する論考を、荒木龍太郎先生からは、陽明学の祖である王陽明の生死観に関する論考を賜りました。また、福島恒徳先生からは、室町水墨画と朝鮮絵画との関係をめぐる研究状況および問題点を主題とした論考を、佐々木閑先生からは、五色根の存在のしかたとその特質を主題とした論考を賜りました。さらに、宗門の若手研究者の一人である関守研悟師は、徳山宣鑑について記述する諸資料を収集され、それらを整理した力作をご投稿くださいました。ご執筆頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、妙心寺開山無相大師こと関山慧玄禅師の六五〇年遠諱の年にあたります。教学研究委員会では、廣田宗玄師を中心に、数年前から関山禅師に関する伝記資料を集め、その訳注を試みて

参りました。そして、今春、遠諱事業の一環として、これまでの研究成果を纏めた『関山慧玄』が刊行される予定になっております。各地で開催される「妙心寺展」とともに、禅師のご生涯やご遺徳に触れるきっかけにして頂きたく存じます。

弊誌は、本号を以て創刊より七年目に入ることになります。幸い、気鋭の学僧の方々に意欲的な論文を投稿して頂く機会が、少しずつではありますが増えてきました。われわれ編集委員のほうでは、そうした論文の一篇一篇に対し、心を込めて対応させて頂いております。宗門の将来を担われる皆様方が、今後も、いま以上により多くの力作を投稿してくださることを願ってやみません。

論文執筆過程における行き詰まりは、誰もが屢々経験することだと思いますが、是非とも、目の前にある諸文献や諸問題と格闘した先に見えてくる独自の結論をご披露ください。

末筆ながら、教化センターの青井直信師には事務全般の労を煩わせました。ここに深く感謝申し上げます。

(本多道隆 記)

【臨濟宗妙心寺派教学研究紀要】論文執筆要項】

《テーマ》 臨濟宗を中心とした禅宗に関するもの。

(ただし、仏教全般に互る内容で、宗学に資すると思われるものについては、これを認める。)

《枚数》 執筆者の任意とする。

《書式》

- ・ 縦書きを原則とする。(サンスクリット等の資料を中心とした論文の場合は、横書きも認める。)
- ・ 本文・資料共に漢字は原則として当用漢字を用いる。
- ・ 資料として書き下し文を用いる場合、仮名遣いは新旧任意とする。
- ・ 資料を口語訳した場合には必ず原文を付す。
- ・ ワープロソフトの場合は、打ち出し原稿とテキストファイルのデータを提出のこと。

《応募先》 〒六一六一八〇三五 京都市右京区花園妙心寺町六四

妙心寺派宗務本所 教化センター TEL〇七五―四六三―三二二(代)

※封筒の表に「紀要原稿在中」と明記のこと。

《締め切り》 毎年十二月末日(厳守)

《発刊》 翌年四月(予定)

臨濟宗妙心寺派

教學研究紀要 第七号

平成二十一年 五月一日 発行

発行人 細川景一

編集 妙心寺派宗務本所教化センター

印刷所 中村印刷株式会社

発行所 妙心寺派宗務本所教化センター

〒六一六一八〇三五

京都市右京区花園妙心寺町六十四

電話(〇七五) 四六三一三二二(代)